

# 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：社会福祉諸費

## 事業名 福祉の仕事普及啓発事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 地域福祉課 福祉人材係 電話番号：058-272-1111(内3448)

E-mail : c11219@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,004 千円 (前年度予算額： 4,004 千円)

### <財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 源
前年度	4,004	0	0	0	0	0	4,004	0	0
要求額	4,004	0	0	0	0	0	4,004	0	0
決定額									

### 2 要求内容

#### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

介護人材は令和8年までに約1,800人不足する見込みであり、介護職員の新卒採用者は全体の約2割程度（転職者が圧倒的に多い）にとどまっている。

特に、介護関係の有効求人倍率は全職種に比べて高く、介護事業所の半数以上に人材不足感がある。職員不足の理由は待遇が最大の要因だが、他にも「介護職員の社会的地位が低く見られている」「職員の人材育成ができていない」などの要因がある。そのため、福祉の魅力を発信することで、福祉人材の確保・定着につながることが期待される。

#### (2) 事業内容

①将来的な福祉人材の確保を図るため、若い世代（小・中高校生）を対象に、「福祉のおしごと新聞（フリーぺーパー）」を発行・配布し、福祉施設・事業所の若手職員に着目したインタビュー記事や福祉関連イベント、県内優良事業所等を掲載し、県内の福祉の職場、福祉系大学、高校のPRを実施。

②福祉人材の確保・定着等を図るため、県内の福祉施設で働いている、ぎふ福祉の魅力知らせ隊や福祉系の大学へ通う学生、福祉教育に携わっている教員等を構成員とした委員会を運営。イメージアップを主とした提案・企画（WEBサイト等を活用した福祉の仕事のPR等）を実施、福祉現場の課題の洗い出しもを行い、施策へ反映させる。

また、福祉施設の職員等による座談会を開催して、その内容をSNSやWEBサイト等で発信することにより、福祉の仕事に対するイメージアップを図る。

### (3) 県負担・補助率の考え方

地域医療介護総合確保基金（国2/3、県1/3）を活用

### 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	3,576	お仕事新聞発行 ・小学生（年3回）分： 990千円 ・中3・高校生（年3回）分： 990千円 WEBサイト等を活用した福祉の仕事の魅力発信事業 1,596千円
報償費	210	企画委員会 委員報償費10,500円×10人×2回
旅費	179	企画委員会 委員旅費3,557円×10人×2回、業務旅費
消耗品費	8	資料作成、コピー代
会議費	4	飲料152円×10人×2回
役務費	7	郵便代、電話代
使用料	20	会議室使用10,000円×2回
合計	4,004	

### 決定額の考え方

### 4 参考事項

#### (1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略、第五期岐阜県地域福祉支援計画

#### (2) 後年度の財政負担

期限を定めず継続的に実施

#### (3) 事業主体及びその妥当性

県の独自事業であり、県が事業主体となることは妥当である。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

福祉の仕事の理解とイメージアップを図ることで、福祉人材の確保・定着を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率

### ○指標を設定することができない場合の理由

定性的な効果を目的とする事業であり、定量的な指標の設定は困難。

### （これまでの取組内容と成果）

令和 4 年 度	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学生向け：年3回（6月、11月、2月）</li><li>・新聞特集紙面の掲載：年3回（6月、11月、12月）</li></ul> <p>福祉の仕事や関連する制度、イベント情報等を掲載し、福祉の仕事内容や魅力等を幅広く伝えるとともに、福祉の仕事に対するイメージアップと、将来的な人材確保に寄与することができた。</p> <p>また、福祉のイメージアップ委員会を開催し、福祉人材確保・定着SNSの内容の検討を行うとともに、委員会での意見を踏まえ、福祉施設の取組みや日々の仕事の様子などの福祉の仕事の魅力ややりがいにつながる情報をSNSで発信した。</p> <p>福祉人材確保・定着SNSの運営により福祉の魅力を発信し、イメージアップと理解促進を図ることで、今後、福祉分野での人材確保・定着が進むことが見込まれる。</p>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 5 年 度	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学生向け：年3回（6月、11月、2月）</li><li>・新聞特集紙面の掲載：年3回（6月、11月、2月）</li></ul> <p>福祉の仕事や関連する制度、イベント情報等を掲載し、福祉の仕事内容や魅力等を幅広く伝えるとともに、福祉の仕事に対するイメージアップと、将来的な人材確保に寄与することができた。</p> <p>また、福祉のイメージアップ委員会を開催し、福祉人材確保・定着SNSの内容の検討を行うとともに、委員会での意見を踏まえ、福祉施設の取組みや日々の仕事の様子などの福祉の仕事の魅力ややりがいにつながる情報をSNSで発信した。</p> <p>福祉人材確保・定着SNSの運営により福祉の魅力を発信し、イメージアップと理解促進を図ることで、今後、福祉分野での人材確保・定着が進むことが見込まれる。</p>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

令和 6 年 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生向け：年3回（6月、12月、2月）</li> <li>・高校生向け：年3回（6月、9月、11月）</li> </ul> <p>福祉の仕事や関連する制度、イベント情報等を掲載し、福祉の仕事内容や魅力等を幅広く伝えるとともに、福祉の仕事に対するイメージアップと、将来的な人材確保に寄与することができた。</p> <p>また、福祉のイメージアップ委員会を開催し、既に実施している県の福祉のイメージアップ事業に対する評価・提案と、今後の福祉のイメージアップ事業にかかる検討を行った。</p> <p>さらに、県民の福祉の仕事への理解とイメージアップを図るため、福祉施設職員へのインタビューと福祉系学生の座談会を計9回実施し、それらの記事をWEBサイト等で発信することで、福祉の魅力発信を行った。</p> <p>これら事業を継続して実施し、イメージアップと理解促進を図ることで、今後、福祉分野での人材確保・定着が進むことが見込まれる。</p>
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)            3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない         </li> </ul>	
(評価) 3	高齢化社会の進展に伴い、今後も福祉人材の需要はますます高まっていくため、将来的な福祉人材の確保につながる事業の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)            3：期待以上の成果あり            2：期待どおりの成果あり            1：期待どおりの成果が得られていない            0：ほとんど成果が得られていない         </li> </ul>	
(評価) 2	将来福祉分野の担い手となる若年層や一般の方に対して、福祉の仕事内容や魅力等を幅広く伝えることができた。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)            2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている         </li> </ul>	
(評価) 2	様々なツールを活用して、幅広い世代に対して福祉の仕事内容や魅力等を効率的に伝えることができた。

### (今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が直面する課題や改善が必要な事項            幅広い年齢層や福祉に関心がない人に対しても福祉の仕事の理解とイメージアップを図る方法を考えしていく必要がある。         </li> </ul>
---

### (次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか            福祉分野の人材不足は深刻化しており、福祉の仕事の理解とイメージアップを図ることで、福祉人材の確保・定着を図ることは重要であることから、継続的に実施していく必要がある。         </li> </ul>
--